

## チャペルニュース

2014年11月30日

### 弱さの呪縛から解き放たれる

上田憲明

福音書にはイエスさまの行った病気を癒す物語が、幾つも記録されている。それは、現代を生きる私たちにとって、どういう意味があるのか？その意味をもう一度捉え直そうとする時に、癒された聖書の中の登場人物だけでなく、私たち自身にも大きな意味を持ってくるとは思いませんか。

その一つの例として、ルカによる福音書一三章一二節に、「婦人よ、あなたの病気は治った。」と新共同訳聖書で訳されている言葉がある。元々の言葉を直訳すると、イエスさまは、この一八年間病気になっていた女の人に、「あなたは、あなたの弱さから解き放たれている」というような言葉を語られたようである。

今も病院でお会いするような、重い病気にかかって、なかなか治らない人もそう考えがちであるが、病気などのせいで、自分のしようと思ったことができない。役に立たない。自分の弱さのせいで、自分の価値がないように感じてしまう、というようなことがあると思う。しかし、イエスさまは、そこで、病気と弱さと自分の価値を一緒にくたにして考えてしまうことに挑戦をしておられると思う。自分の弱さを受け入れることは、往々にして弱さに負けてしまって、現状を諦めてしまうように考えてしまいがちだが、本当に自分の弱さを受け入れる時には、「その弱い自分に何ができるのだろうか？」「何もできないように感じている自分ができることはどういうことだろうか？」を、現実にも立脚して考えていけるように変えられていくのではないだろうか。また、自分の価値を自分が他の人にどれだけ役に立っているかによって測り、それだけが価値基準のように信じてしまうのではなく、神様が既に自分の価値を認めてくださっているというところから出発すると全てが違って見えてくる。自分の価値を測るためでも、自分の価値を証明するためでもなく、自分に他の人に役立つ何かができる喜びから、それをしていく事へと変えられていく。「弱さ」の持つ呪縛から解き放たれた時に、弱さも持っているありのままの自分であることができ、喜びの生活に入っていけるのではないだろうか？